

事業者温室効果ガス削減報告書概要(第一計画期間) 第3年度分

1 事業所の概要

事業者の名称	株式会社仙台サンソセンター		
事業所の名称	株式会社仙台サンソセンター		
事業所の所在地	宮城県仙台市宮城野区港1-6-1		
主たる事業	化学工業		
事業者の該当要件	○	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
		条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
		条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
		条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針	1. 事業活動を通じて、環境負荷を最小限にする仕事の仕組みをつくり、環境の保全に取り組めます。 2. 事業活動を通じた環境保全活動を定期的に見直し、継続的な改善に努めます。 3. 環境保全に関連する法規制を遵守します。		

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの削減目標	基準年度	2019 年度	基準排出量	31,495 t-CO ₂	基準原単位	427.9
		目標年度	2022 年度	目標排出量	31,180 t-CO ₂	目標原単位
			削減率	1.00 %	削減率	1.00 %
温室効果ガスの排出状況	第1年度	2020 年度	排出量	31,183 t-CO ₂	排出原単位	445.5
			削減率	0.99 %	削減率	-4.12 %
		排出量等の増減理由	製品(酸素ガス)供給先の設備トラブルにより、長期間酸素ガス需要が低下。そのため酸素ガス圧送設備の稼働時間及び電力量が減少し、CO ₂ 排出量減少。しかし、原単位の観点では酸素ガス需要減少(=分母の生産量が減少)により、原単位は悪化した。			
	第2年度	2021 年度	排出量	34,690 t-CO ₂	排出原単位	418
			削減率	-10.15 %	削減率	2.31 %
		排出量等の増減理由	ガス製品・液製品共に2020年度よりも高需要であり、液化窒素製造装置や酸素ガス圧縮機の稼働時間が増加したため、CO ₂ 排出量は増加した。 *2021年度から電力契約が変わり、平日昼間に大容量電動機を運転して高需要に対応できるようになった。 原単位の観点では分母の生産量が増加したため、原単位は向上した。			
第3年度	2022 年度	排出量	35,063 t-CO ₂	排出原単位	422.4	
		削減率	-11.33 %	削減率	1.28 %	
	排出量等の増減理由	2021年度から電力契約が変わり、平日昼間に大容量電動機を運転して高需要に対応できるようになった。そのため、液化窒素製造装置や酸素ガス圧縮機の稼働時間が基準年度よりも増加しておりCO ₂ 排出量は増加した。原単位の観点では分母の生産量が増加したため、原単位は向上した。				

3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	78 %	目標年度	100 %
	第1年度	87 %	実施状況の説明等	教育関連は今後も1回/年以上実施する。また、ルール化に関して未実施だった項目は第2年度で対応完了しているため、対策は概ね順調に実施できている。
	第2年度	96 %	実施状況の説明等	照明設備のLED化は順次実施中。
	第3年度	100 %	実施状況の説明等	照明設備の交換時期に合わせて順次LED化を実施中。
選択対策の実施状況	項目			実施状況
	生産性管理			実施済
	エネルギー使用量の見える化(前年度比較)			実施済
	エネルギー使用量の見える化(分計による課題発見)			実施済
	ポンプ、給水系統の保全管理			実施済
	ファン、ブロワ、給気系統の保全管理			実施済
	デマンド管理			実施済
その他の対策の実施状況	項目	具体的な取組内容		実施状況
	廃棄物削減対策の実施	事業ごみ分別の徹底(ごみ箱に分別表を表示し、燃えるごみとミックスペーパーの分別徹底)		実施済
	従業員の自動車利用の抑制、公共交通機関の利用促進	晴れの日の自転車通勤の奨励		実施済
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	照明設備のLED化		実施済
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	送水ポンプの更新(高効率電動機の採用)		未実施
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	従業員用冷蔵庫の更新(省電力製品の採用)		実施済